

「表現の不自由展・その後」展の中止を撤回し、 展示が再開されるよう求めます

あいちトリエンナーレ 2019 での「表現の不自由展・その後」は開幕 3 日目に展示中止とさせられました。従軍慰安婦の少女像や写真などが掲示されていることに対して「ガソリン携行缶を持ってお邪魔する」などの脅迫があい次いだことを理由に愛知県が中止を決めています。脅迫の背景には、河村名古屋市長による作品撤去要求や菅官房長官による「補助金交付の決定にあたっては、事実関係を確認精査して適切に対応したい」などの発言がありました。これらは政治権力による芸術表現への検閲・介入の可能性を公にしたとも言えるものです。

抗議メールが主催者に殺到したとされています。しかしガソリン脅迫犯はすでに捕まりました。教訓とすべきは、こうした脅かしを組織的に行いさえすれば、それを理由に「政権にとって不都合なもの」は何でも封じ込めることができる、という先例になりうる点です。

芸術表現は多様であることを人類社会は認めてきました。その一部を恣意的に潰す行為が許されるならば、戦前日本の弾圧・翼賛体制の復活を意味することとなります。

同じ少女像はいまベルリンでも展示され続けています。そこでは自由な展示の場と安全が保障されています。

日本がさらに深刻な「表現の不自由」な国へと進んで行ってはなりません。世界に恥じない日本社会であり続けるよう、ただちに「表現の不自由展・その後」展の中止決定を取り消し、展示を再開するよう求めるものです。

2019 年 8 月 10 日
日本リアリズム写真集団